

THE GOOD LIFE (ザグッドライフ)

CONNECTIONS (つながり)

私の仕事「大津町国際交流員」の目的の1つは、大津町と姉妹都市(ヘイスティングズ市)の関係を強くすることです。大津に来た時、私の仕事は「つながり」を作ることと理解しました。しかし、最初は姉妹都市との国際関係がメインだと思っていたけど、実際は、大津町民の人と人の「つながり」を作ることが優先されました。大津に来て「英会話教室」を開催。参加者は学校の先生や公務員、退職している人などさまざまです。そこでは参加者だけでなく、教師(=me)も学ぶことがいっぱいあります。日本の社会や文化を理解しないと、教え方がちょっと難しい所があります。だから毎回、英語を教えながら、自分も何かを習得しようとしています。



今月のブレイクさん(ロミジュリのワンシーン)

でも本当は、私の specialty(専攻)は教育ではなくて、演劇と音楽のパフォーマンスです。その経験をどうやって上手く使うか、大津町国際交流協会メンバーと一緒に考えて、思いついたのは舞台上で芝居をすることでした。さて、どんな芝居をしようか。ちょうど前の年に、私が卒業した大学の演劇部がロミオとジュリエットのパロディーをしたので、その台本を手に入れました。それを数人で翻訳して、「大津まちおこし大学」としてスタート。2013年8月から練習が始まり、2014年3月に公演が実現しました。翻訳から本番まで60人以上、小学生や外国人も参加し、日本語や英語で交流しながら、道具や衣装を作ったり、役を演じたり、ポスターやプログラムをデザインしたりするなど、素晴らしい出来事でした。一緒に劇をした多くのメンバーは、英会話教室で知り合って「ロミジュリ」に誘った人たちでした。教室で友達になった参加者は、「ロミジュリ」のプロジェクトがあると聞いて、一緒に参加してくれました。

「ロミジュリ」の準備において、一緒に大きなゴールを目指しながら、もっと仲良くなりました。参加メンバーは中学生から60代の人まで、劇の体験が全くない人や、あちこち(イギリスや東京など)で劇の経験がある人もいました。大津町は比較的小さな町ですが、こういうグループを集めて、劇が作れる chance があるとは、意外ですね!

今年は、去年とほぼ同じメンバーに数人の新人が加わり、3月22日(日)午後2時から、文化ホールで「ハムレット：デンマーク王子の喜劇」を熱演します(詳細は11ページ)。私にとっては、子どもから年配の人までさまざまな人が一つの場所で演じる特別なイベントです。私が大好きな演劇に多くの人が集まってきていることが特に素晴らしいと思います。I am a lucky guyに違いない! 去年は約450人の観客が来てくれました。今年は、文化ホールがFULL HOUSE(満杯=500人)になるように希望しています。入場は無料なので見に来ませんか?



大学の演劇仲間と

認知症高齢者が安心して地域で生活するために

「あんしん声かけ訓練」を実施しました

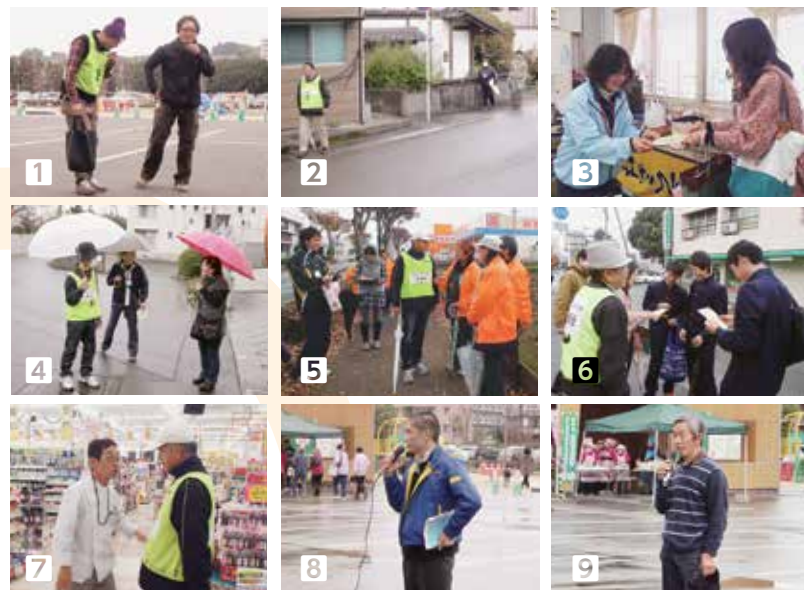
認知症高齢者は全国で280万人(平成22年時点)と言われており、軽度の認知症(MCI)を含めると65歳以上人口の4人に1人は認知症というデータもあります。認知症は特別なものではなく、私たちの身近にある、ありふれたものなのです。

認知症高齢者の増加に伴い、認知症の周辺症状の一つである徘徊が問題となっています。2013年には、認知症が原因で行方が分からなくなったとして警察に届け出があった件数が、全国で1万322人だったという報道がありました。中には現在も行方が分からない人や、最悪の場合、死亡して発見されるケースもあります。認知症の高齢者が住み慣れた地域で暮らし続けるためには、介護保険や町のサービスの充実はもちろん、地域の皆さんの見守りなどの協力が不可欠です。町では、地域での見守りを可

能にするためのネットワークづくりを目指しています。それは地域の皆さんに認知症に対する理解を深めてもらうことが大切です。そこで、徘徊している認知症の人にどのような声掛けをするか良いのかを体験してもらうため、「あんしん声かけ訓練」を昨年11月30日に実施しました。

訓練では徘徊役の4人が認知症高齢者になりきって中央区、中学通り区を歩きました。参加者は、高齢者が安心できるような声掛けを行いました。参加者からは「声掛けするには勇気がいる」「今後このような訓練が必要。また参加したい」といった意見がありました。

認知症の人の発見が遅れる要因の一つに、すれ違ってもひと目で認知症の有無や徘徊をしていないかなどを見分けがつかないことが多く、姿を見ても徘徊していることに気づけなかったり、気がついていても何もせず、



認知症対応の7つのポイント

- ①まずは見守る
- ②余裕をもって対応する
- ③声をかける時は一人で
- ④後ろから声をかけない
- ⑤相手に視線を合わせ、優しい口調で
- ⑥おだやかに、はっきりした滑舌で
- ⑦相手の言葉に耳を傾け、ゆっくり対応する。

認知症サポーター養成講座を実施します

認知症の正しい知識を学び、地域で認知症の人や家族を支える認知症サポーターになりませんか?

- 日時 3月26日(木) 午後1時30分~午後3時
- 場所 町老人福祉センター
- 申し込み・問い合わせ 町地域包括支援センター
☎ 096(292)0770、☎ 096(292)0771

訓練の流れ

①どのように認知症の高齢者に声掛けをしたらいいのか、町内介護保険事業所の職員がデモンストラーションをして説明をします②徘徊役の人は黄色のビブスを着用して地区内を歩きます③サポーター役が声掛けした人に「ありがとうカード」を渡し、訓練や声掛けの方法について説明します④⑤「散歩ですか?どこに行きよなっでですか?」と、さりげなく、安心できる声掛けをします⑥高校生も徘徊役の人に声をかけました⑦お店の中にも入ります⑧⑨閉会式。大津警察署から「関心を持つことが一番大事」と講評がありました。また、徘徊役が一人で歩いてどう感じたかなど、感想を言いました

そのままにしておいたりする場合があります。認知症の人は一度徘徊すると、体が疲れていても休息をとらず、どこまでも歩き続けるこ

とがあります。そのため、転んで怪我をしたり、暑い時期は熱中症にかかったりして、命の危険を伴う場合もあります。もし、身近に普段見かけない

人や「認知症の人かな?」と思う人が側に居たら、勇気を持って、ゆっくり、穏やかな口調で、声掛けしてみよう。町ではこのような訓練を今後実施する予定です。皆さん、ぜひ訓練に参加して、認知症についての正しい知識を持ち、認知症の人が安心して生活できるように地域をみんなで作っていきましょう。

■問い合わせ 町地域包括支援センター
☎ 096(292)0770、☎ 096(292)0771